

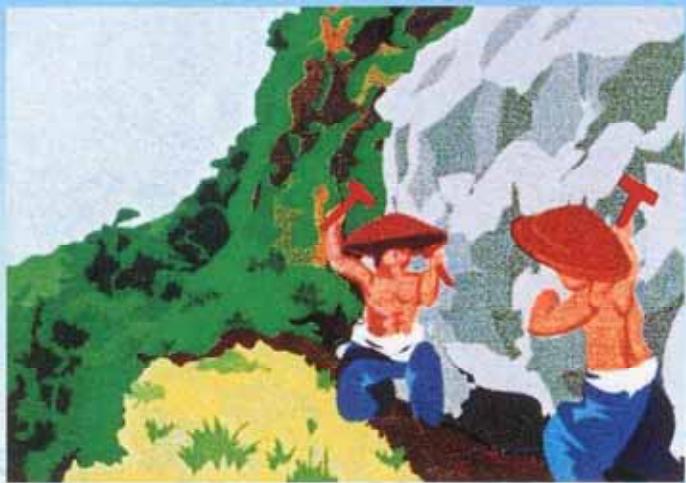
小学生副読本資料

ふなくらの

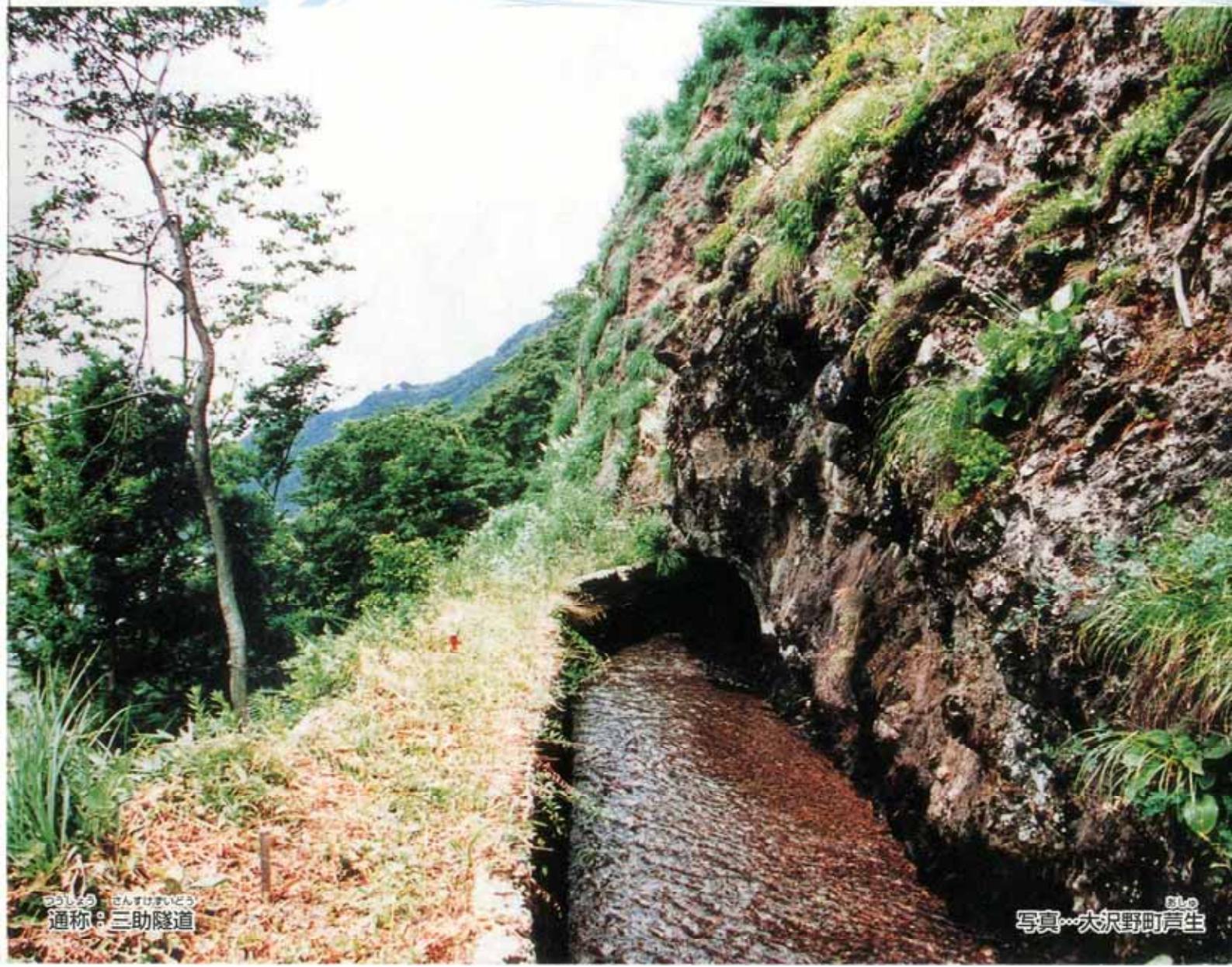
舟倉野に 水を引く

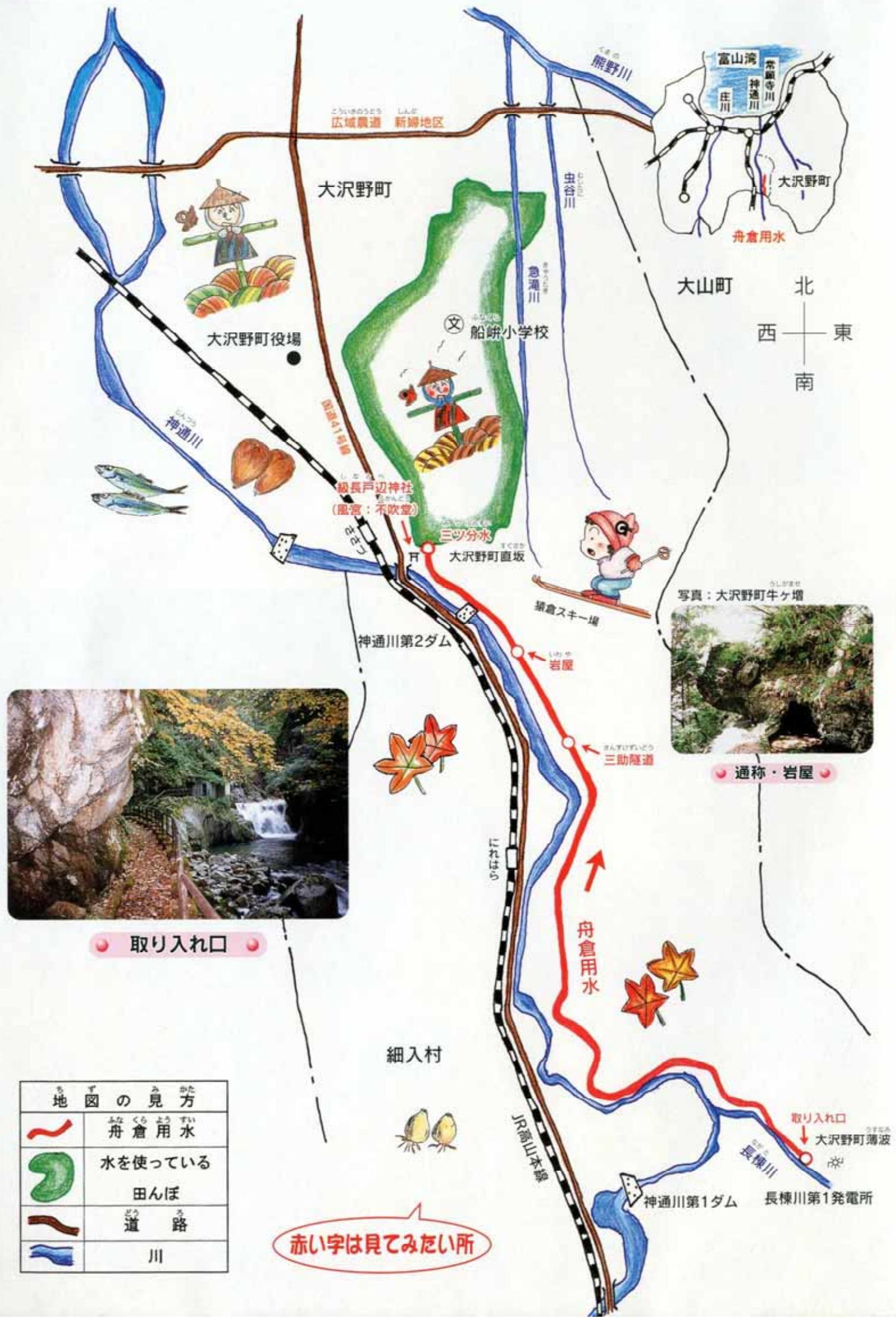
みす

ひ



ようす
昔の工事の様子





舟倉用水

舟倉用水は、神通川の右側の山腹を流れています。大沢野町の船崎台地の上流部の直坂から下流部の万願寺までの約360haの田んぼに水を取り入れています。(台地には約480haの田んぼがあります) 水源は大沢野町薄波を流れる神通川の支流長棟川にあり、直坂の三ツ分水まで延長約13キロメートルの長い用水です。

用水の歴史

むかし、船崎台地は神通川の下流の流れが盛上がりでできました。200年ほど前まで、そこは雑木やさきのしげる原野でした。ここには2つの川(虫谷川と急滝川)と小さなため池があるだけでした。そこに住んで少しの田んぼや畠を作っていた人々は「水さえあればたくさんの田んぼや畠ができるのになー」と考えていました。そのころ、十村役(大庄屋にあたる)をしていた五十嵐孫作という人が、用水をつくり、みんなを助けようと、舟倉の野を開墾する計画を立て、しばしば加賀藩にお願いしていました。寛政8年によりやく藩より開墾の許しをもらった孫作が測量、設計、工事の責任をもつことになりました。算数得意な石黒信由や今の富山市、福岡町からも手伝いの人がありました。傾きを測ったり、水の量を計算したり、見取り図を書いたり、色々分担して仕事にあたりました。台地や山の測量と、用水の設計に13年もかかりました。

文化7年からようやく工事に入ることができました。山が険しいので、岩を掘り碎き、幅5尺(1.52メートル)深さ3尺(0.91メートル)の用水を作る仕事はなかなかはかどりません。道具はノミ、タガネ、コヅチの3つだけです。大きな岩にぶつかると、草木を集めて岩を焼き、その上

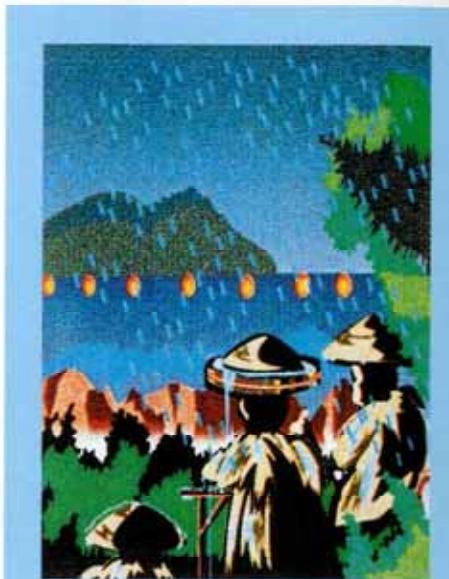


から水をかけ、急に冷やして亀裂を作り、ノミを打ち込んで碎く、という方法で工事が進められました。近くの村から多くの人がかり出され、昼も夜も食事や睡眠を忘れるくらいになって働きました。5人の死者とたくさんだけが人を出した工事も、7年の年月をかけようやく文化13年に完成しました。今のお金にすると16億8千万円ほどかかったといわれています。次の年、用水に初めて水が流れ、少しの田んぼに植え付けができました。おかげで荒れた台地は美しい田んぼや畑に生まれかわったのです。



ねんびょう 舟倉用水と舟倉野の年表

年代	ことがら
一七九六 (寛政八年)	加賀藩が、舟倉野の開墾と舟倉用水をつくることを決定した。 主附(総責任者)五十嵐孫作 水矯人(工事・測量技術担当) 石黒信由
一八一〇 (文化七年)	測量と設計に十三年もかかったがようやく舟倉用水の工事が始また。
一八一六 (文化十三年)	舟倉用水ができた。工事完成の頃五人の死者がでた。
一八五〇 (嘉永三年)	用水が大災害にあり、椎名道三が責任者となり復旧にあたつた。
一九一四 (明治四四年)	用水がこわれ、土だわらをつむ作業の時、六人の死者がでた。
一九七〇 (大正二年)	大洪水で舟倉野に大きなひがいがあつた。元にもどすのに、五八〇〇人の人足と四万俵の土だわらを使つた。
一九八九 (昭和四五年)	ほ場整備事業が始まった。
一九九一 (平成三年)	県営かんがい排水事業で舟倉用水の改良工事が始まった。 ほ場整備事業が完成した。



笠による測量

対岸のちょうちんの明かりを見て、ヒノキ笠の周りから流れ落ちる雨水により、水路の高さを測ったといわれています。

い がらし あつ よし

かん せい

まん えん

五十嵐篤好 [1793~1861 (寛政5年~万延2年)]



こく がく しゃ か じん のう がく しゃ と むら やく
国学者・歌人・農学者・十村役。

と なみ ぐん うち じま むら たか おか
礪波郡内島村 (今の高岡市) の十村役、五
がらし まご さく ちょうなん
十嵐孫作の長男として生まれる。通称・
こ ぶん じ
小豊次のちに孫作をなめる。少年の時、
いし ぐろ のぶ よし わ さん そくりょう
石黒信由に和算測量を学ぶ。父を助け舟
かい さく つく
倉用水の開削に尽した。国学・農事の基
そ てき けんきゅう かいりょう
礎的な研究・改良に打ち込みレンゲソウ
さい ぱい すす のう みん すく ど りよく
栽培を勧めた。農民を救うため努力した

ことがかえって藩に嫌われ、何度か処分を受けたが、ひるまず、烈々
たましい たましい
たる農民魂を持ち続けた。越中第一の歌人・国学者であった。碑は
高岡市東五位小学校に建つ。

いし ぐろ のぶ よし

ほう れき

てん ほう

石黒信由 [1760~1836 (宝暦10年~天保7年)]

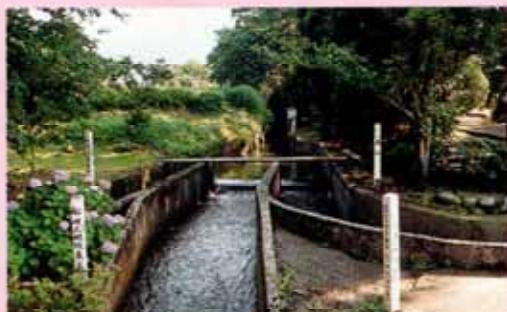
こう き さん がく しゃ
江戸時代後期の算学者・測量家。

い みず ぐん たか ぎ しんみなど

射水郡高木村 (今の新湊市) に生まれる。

ようめい よじゅう ろう つうしょう と う ん もん

幼名与十郎、通称・藤右衛門。加賀藩の
めい けん ち 命を受け検地、測量、製図に大きな功績
を残し、学徳を慕う多くの門人を育成す
る。新田開発や河川・用水の修築などま
た、加越能3州の測量と地図作製に尽く
した。和算家で西洋数学を研究した数少
ない一人であるが、特徴は多方面の学問を実学的に統一して進めた。



三ツ分水

舟倉用水は直坂にある級長戸辺神社 (通称: 不吹堂)

の横で東江・中江・西江の三つに分かれています。

その場所を三ツ分水と言います。分かれた水はずっと
下流まで流れ、田んぼを潤しています。

(江とは水路のことです)

用水の管理



直した所

用水に岩などが入らないように蓋がしてあります。

え ざら さ きょう
が管理し、水を使っているみんなで江浚いなどの作業をしています。
かい つう ご
用水開通後約190年もたつと水路も所々傷んできています。今でも
「安全に」水を流すための改修工事が進められています。

用水の役割

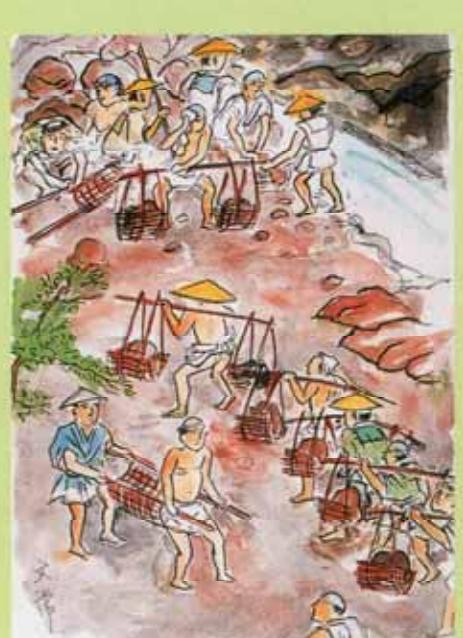
田んぼや畑の作物に必要な水を流すこと
が一番大切なことですが、降った雨を受け
下流で大きな川へ流し、土砂などが崩れる
のを防いでいます。

また、防火・消雪用などのために、冬の
間も流し、みんなの安全を守っています。

私たちの大切な水を流す用水です。

“ゴミなどを捨てないようにしましょう”

“水の流れが速いので気をつけましょう”



小学校

年 組 名前